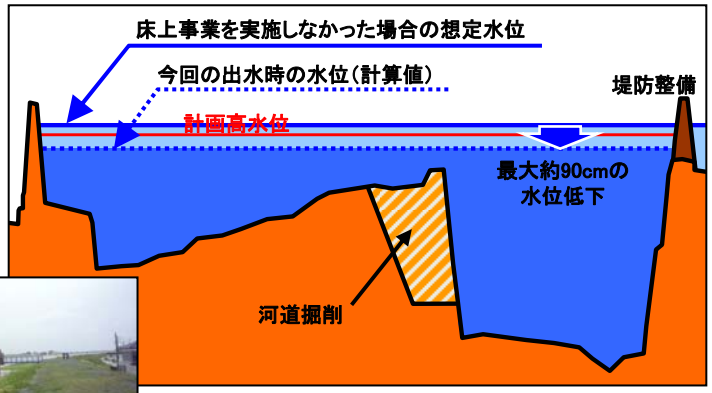
本事業により実施した堤防整備、河道掘削等により、背後地の浸水被害が大幅に減少するとともに、事業区間において最大で90cmの水位低下が図られたものと考えられる。



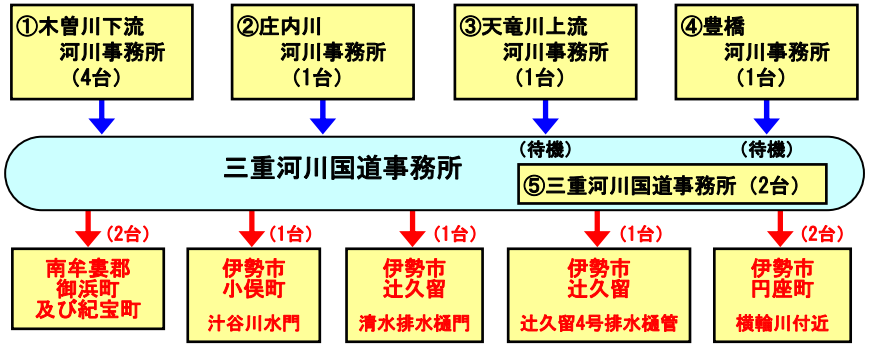
事業区間における水位低下イメージ

堤防整備箇所の出水時の状況
（宮川右岸：伊勢市辻久留地区）

出水に対する対応

三重県、南牟婁郡紀宝町、伊勢市からの要請により、中部地方整備局の統一的な指揮命令系統のもとで、浸水箇所に、排水ポンプ車7台を派遣し、総稼働時間約68時間、総排水量約122,000m³の排水作業を行った。

災害対策車両（排水ポンプ車）の派遣状況



紀宝町成川地区
（新宮川の氾濫水を排水）

辻久留4号排水樋管付近
（排水ポンプ稼働により家屋浸水を防ぐ）

速　報
平成23年9月7日

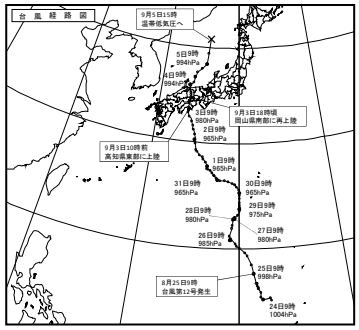
平成23年8月30日～9月5日
台風12号による宮川の出水状況

注）この資料は速報として取り急ぎまとめたもので
後日一部訂正や追加をすることがあります。

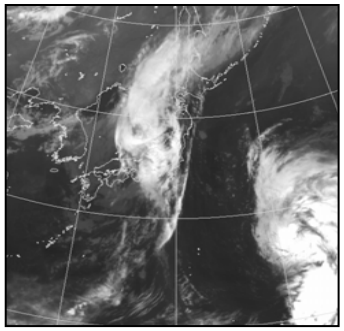
国土交通省中部地方整備局
三重河川国道事務所

台風の概要

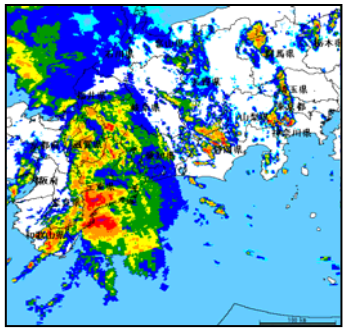
8月25日にマリアナ諸島付近で発生した台風12号は、30日に小笠原近海で「大型で強い」台風となり、その後、日本の南海上をゆっくりとした速度で進み、9月3日に高知県に上陸し、四国、中国地方を北上し、4日には日本海に抜け、5日に温帯低気圧となった。



台風経路図（9月5日15時現在）
（提供：気象庁）



気象衛星（9月4日6時）
（出典：気象庁HP）



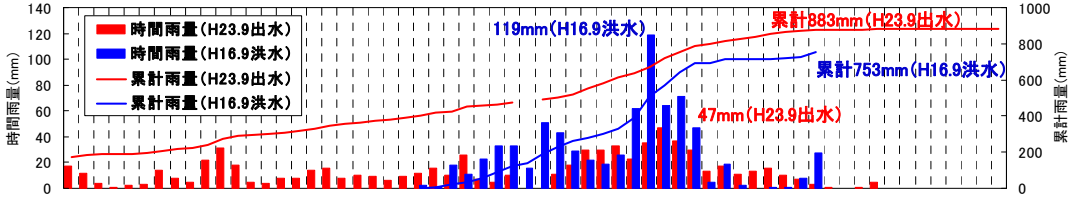
レーダー雨量（9月4日7時）

雨量・水位（平成16年9月洪水との比較）

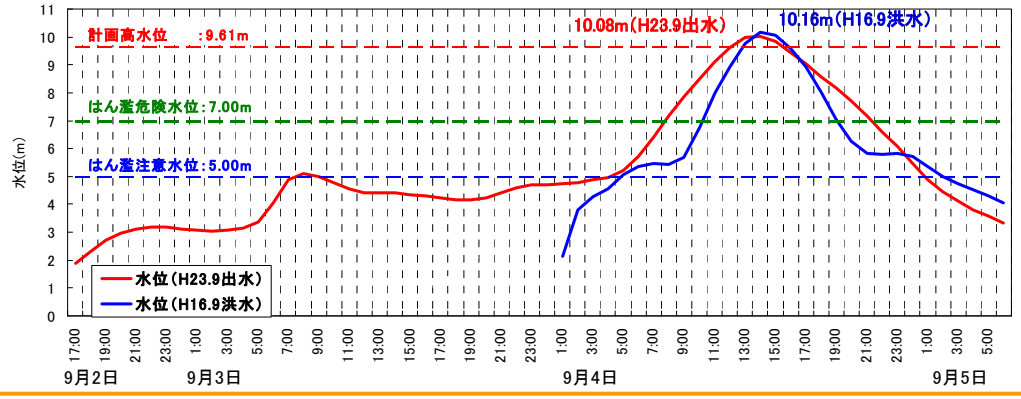
台風12号は、紀伊半島を中心に広い範囲で長期間にわたり大雨をもたらしたことから、宮川雨量観測所（国土交通省所管）における累計雨量は、戦後最大洪水である平成16年9月に発生した台風21号による洪水を上回っている。

また岩出水位観測所のピーク水位は計画高水位を約50cm上回り、また平成16年洪水での水位とほぼ同じであった。

宮川雨量観測所（国土交通省所管）



岩出水位観測所（宮川左岸11.6k：度会郡玉城町）



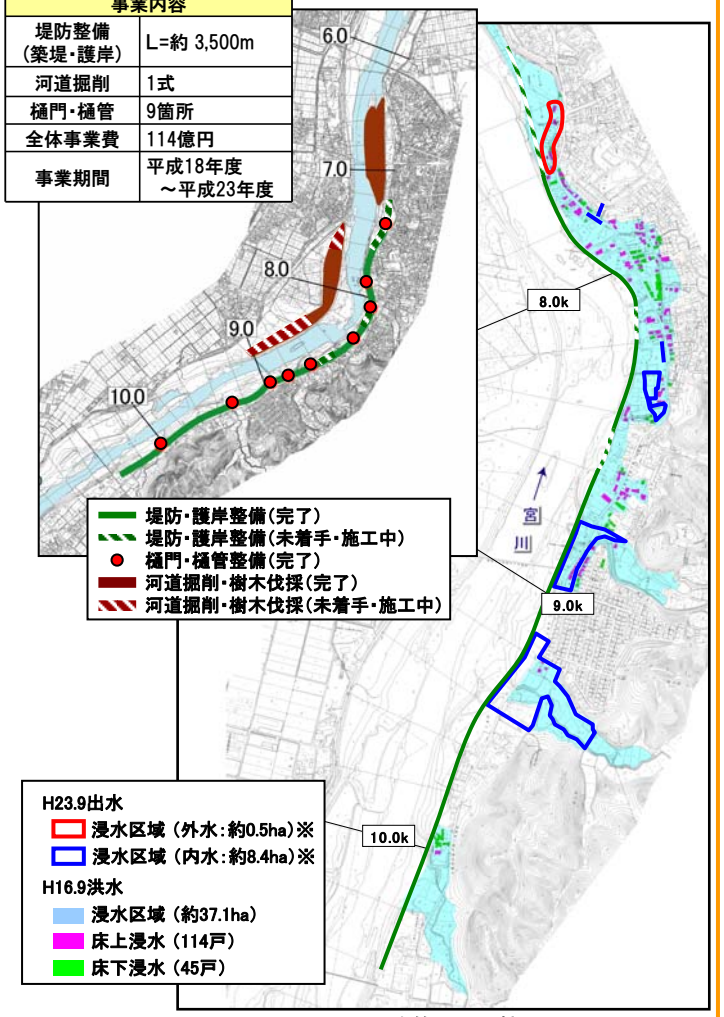
平成16年洪水を踏まえた事業の効果

今回の出水は、甚大な被害が発生した平成16年洪水と同規模程度の出水であると考えられるが、平成16年洪水時と比べ、浸水被害が大幅に減少している。

これは平成16年洪水を受け、平成18年度より実施中の「宮川床上対策特別緊急事業」での堤防整備、河道掘削により発生した効果であると考えられる。

宮川床上緊急対策特別緊急事業

事業内容	
堤防整備（築堤・護岸）	L=約 3,500m
河道掘削	1式
樋門・樋管	9箇所
全体事業費	114億円
事業期間	平成18年度～平成23年度



浸水範囲の比較

※ 9月4日15:30～18:00に三重河川国道事務所が行った河川巡視による目視の確認範囲であり、今後変更となる可能性がある